

三 有限会社 大八洲殖産の設立（昭和四十九年～六十年）

守谷町大井沢地区に入植した素住台二十一戸が昭和四十八年末に移転を完了し、移転先に落ち着いてこれから本格的に農畜産業の経営に乗り出したところであるが、住宅公団区域内に換地配分された農地が残っているけれども周囲には次第に住宅が建ちはじめ、面積も細分化され、環境的にも立地上農地として利用度が低く耕作するにも条件が悪くなってきたから、その土地と買換えて面積の拡張を望む要請が所有者からあった。組合としても農業の経営規模の拡大にはもともと得策と考え、組合の業務として取り上げることになった。

しかし、一般農協組織では組合員の土地といえども取引業務は禁じられているので、組合は不動産取扱い業務のできる有限会社大八洲殖産を設立して昭和四十九年五月に営業許可を受け、早速営業を開始した。

ところが、営業を始めたのはよいが、役員も取扱う担当者も組合の役員と職員で、組合の仕事と掛け持ちのまったく素人のやることであつたから、仲介に入った者を信用して契約金をしかも大金を騙し取られる等、当初は失敗もあつたが、そのうち軌道に乗せることができた。

その頃は、公団内の農地は住宅用地として買い手も多かつ

たので、売却は容易にできた。そして当方が求めている農業地域の農地は土地ブームの終わった時代で投機的に買う業者もいなく、農業離れの傾向で一般農家も売りたいくても買う人はいないということ、農地を買ってくれるところは開拓しかなないと、地主が直接話しかけたり、不動産業者も一番先に組合に仲介してきたので、買換え農地の買収も案外順調に組合員に仲介することができた。ほぼ十カ年に及ぶ営業中に当社が仲介した買換え農地は六倍の面積に達したので、大八洲殖産の設立目的を十分達成できたとして、昭和五十八年十二月十八日の総会で閉鎖することを決議し、翌年から解散の準備に着手、昭和六十年四月に一切の精算事務を終了して解散登記を行い、大八洲殖産の幕を下ろした。

有限会社大八洲殖産社員名簿

高橋	辰左エ門	鈴木	信	井上	敬吉
寒河江	力	田中	義一	花輪	源三郎
滝口	富次郎	高橋	宗太郎	鈴木	源三
庄司	武雄	田中	長次	佐藤	斉

大八洲開拓農業協同組合
以上十三名

役員

代表取締役 高橋 辰左エ門

昭和四十九年五月十五日、会社成立前の社員総会において

取締役 佐藤 孝 治 (大八洲開拓農協組合長)

取締役および監査役の選任を行うとともに取締役会において

取締役 高橋 宗太郎

代表取締役を互選して決定した役員は次のとおりで、会社解

監査役 田中 長次

散まで重任した。

営業期間中の事業実績

区別	面積	売買金額	仲介手数料
組合員が譲渡した土地	三八、二五一㎡	一、六〇六、九六九、〇〇〇円	三三、七四六、三四九円
組合員が譲受した土地	一九〇、二一五㎡	七四一、六九〇、九六九円	一四、八三三、八一九円
同	二七、一二五㎡	一四〇、八二七、二五〇円	なし
計	二五五、五九一㎡	二、四八九、四八七、二一九円	四八、五八〇、一六八円

四 農畜産業の歩みと現況 (昭和二十二年〜最近時)

1 共同経営中の家畜の飼育

入植した翌年に二十ヘクタールの開墾地に蒔きつけた陸稲や野菜、七十アールに試作した水稲も九月の台風による水害で流された。こうした作物の穫れない年が四年も続いた。そのような人間の食べ物もない状態の中で家畜を飼うことは安易にできるものではなかったが、現金収入の手取り早いものからと二十二年六月に鶏初生雛五百羽を買入れ、天幕の中

で電熱育雛を皮切りに、兎と山羊も買って、主に子供達で飼育した。

続いて農業会の幹旋により最初に導入した綿羊十頭をはじめ、その後も購入した綿羊は流作の堤防地帯に放牧して養い、次第に殖えていった頃には紡毛機で満洲開拓の経験により自家加工し、当時物不足であったから毛糸はよく売れたので、現金収入を得て助かった。

これらの家畜は粗飼料で何とか養うことができたが、豚は